

## 環境・コミュニケーションの重要性

U 高等専門学校：経営情報学科・4年

期 間：令和6年9月2日～6日（5日間）

今回のインターンシップでは、5日間にわたり実務体験をさせていただきました。業務の内容や流れを学ぶだけでなく、社会人としての心構えや企業で働く上での重要な要素についても深く理解することができました。

インターンシップ期間中には、領収書の整理や月次ファイリング、書類のスキャン、年末調整のデータ登録、元帳の過年度分のデータ入力など、実際の税務業務に触れる機会がありました。特に印象に残ったのは、年末調整のデータ登録、元帳の過年度分のデータ入力作業です。一見単純に見えるこれらの作業でも、正確さが非常に求められ、少しのミスでも大きな影響を及ぼす可能性があることを学びました。このように、一つ一つの業務に責任感を持って取り組む姿勢が、税務業務において重要であることを実感しました。

インターンシップを通じて最も強く感じたのは、職場におけるチームワークとコミュニケーションの重要性です。税理士事務所という専門的な業務を行う環境では、社員が個別に作業を行うと思っていました。しかし、実際には社員同士がコミュニケーションを取り合い、助け合っている姿が印象的でした。忙しい業務の中でも、社員の皆さんが笑顔で挨拶を交わし、コミュニケーションを大切にしながら業務にあたる姿を見て、私自身も前向きな気持ちで働くことができました。また、先生がたくさんお話をしてくださり、業界や仕事に対する考え方など、様々な知識を得ることができたのは大きな収穫でした。

インターンシップ前は、税理士事務所での業務に対してやや堅苦しいイメージを持っていました。専門的な知識やスキルが要求される職場であり、常に集中して業務に取り組む印象が強かったため、少し緊張していました。しかし、実際に現場を体験してみると、専門性や正確さが求められる部分はあるものの、職場の雰囲気は非常に温かく、リラックスした環境で働くことができると気付きました。

今回のインターンシップを通じて、社会や企業に対する見方が大きく変わりました。業務を通じて、社会全体の経済の流れや企業の成り立ちを間接的に感じることができました。また、税理士業務が単に数字を扱うだけでなく、企業の成長や安定にどれだけ貢献しているかを学び、社会的な責任感が強い職業であることを感じました。

インターンシップで学んだことを、これからの学校生活や将来に生かしていきたいと考えています。特に、仕事に対する責任感やコミュニケーションの重要性を学んだことで、自分の成長に繋がりたいと思います。この5日間の経験を通じて得た知識やスキルを、自分の強みとして活かし、今後の学業や就職活動に向けてさらに努力していきたいです。さらには、現場での実務経験を通じて身につけた細部への注意力や、課題解決能力を今後の学びに活かし、より実践的なスキルを身につけていきたいと考えています。

# 学び続ける大切さ

T 高等専門学校：土木建築工学科・4年

期間：令和5年8月21日～25日（5日間）

私はこの度、地元のコンサルタント会社でインターンシップを経験させていただきました。このような活動は初めてだったため学ぶことも多く、視野の広がる大変良い経験となりました。

今回私が一番驚いたことが、電子機器を多く用いて仕事をしているということです。もちろん今の時代どの仕事でも当たり前で電子機器を用いますが、私が思っていたよりも多くの機材を用いて仕事をしていらっしゃいました。3DCADやレーザーで測量できる機械など多くの機材を目にしましたが、中でも特に記憶に残っているのはドローンです。実際に私も操縦を経験させていただきましたが思ったよりも簡単に使いこなせ、また画質も良く、時短にも繋がり、これを上手く使いこなせば仕事は格段に楽になると感じました。ドローンを用いた測量というのもあり、山など本来なら1ヶ月かかる測量もドローンを用いることで半日で終わるらしく、技術の進歩を感じます。これからの土木業というのはどんどんこのような機器を用いて便利になっていく一方、逆にこれらの機器に適応していかなければこれからの時代生き残れないということなのではと感じました。

また土木職は資格が多いですが、この会社では毎年一つ何かしらの試験を受けている人が多いと聞き、大変驚きました。このように機械や資格など会社に入ってから多くの勉強をしていくことが大切なのだということが今回の最大の学びの一つです。

それから仕事内容についてですが、地元のコンサルタントというのもあり、自分が設計に携わった橋や道路などを日常生活で見ることが出来るのが良いポイントだと感じました。自分の住む地域の役に立っているということが目に見て分かりますし、またやりがいも感じやすくそれが地元会社の強みではないかと思えます。

最後に、仕事内容以外では社員の皆様の温かさというのが一番心に残っております。会社というのはどこも必要最低限のことしか話さず真面目で少し怖い空間というイメージがあったため、職場の温かい雰囲気に非常に救われました。何も分からない私にも皆様とても優しく接していただき、私も将来はこのような温かい職場で働きたいと強く感じました。

今回のインターンシップでは本当にたくさんのことを学べ、働くということへの理解が深まりました。この経験を元にこれからの就職活動、また今後の学校生活全般に役立てていきたいと思えます。

# 責任から感じた仕事の印象

Y大学大学院：創成科学研究科・農学系専攻・1年

期間：令和4年8月22日～26日（5日間）

私がインターンシップに参加したのは実際に働くことを身近に考えられるようになりたかったからです。学部生時代にインターンシップを経験せずに就活に臨んだ際、自分の将来像が想像できず社会人になることに怖気づいてしまいました。もちろん研究を続けたくて大学院に進学しましたが、就職からの逃げ道として選んだ側面があることを否定できません。そのうえで、インターンシップ先にコンサルタント会社を選んだのは、自分の研究分野を仕事として活かせる可能性を感じたからです。DNA関係の研究をしている身としては就職しても自分が大学で学んだことを活用できると思っていませんでした。恥ずかしながらインターンシップの募集を見るまで、建設コンサルタントという職種があることも知りませんでした。己の見識や世界を広げるためにも今回のインターンシップに参加してよかったと思っています。

インターンシップ初日はとても緊張していましたが、社員の方が優しく声をかけてくれたこともあり、会社のこと、仕事の流れについて教えてもらっているうちに緊張が興味に変わっていきました。仕事の結果に驚くとともに、それをつくりあげるためにどれくらいの人に関わるのかと、会社として働くことのイメージができるようになりました。また安全教育をうけて、企業として安全確認をすることの重要性を知って、仕事についてよりリアルに感じるようになりました。

実際の就業体験として、初日の午後から5日間で環境DNAのサンプリングから解析までを行いました。DNAについては学んでいましたが、環境DNAのことはよく知りませんでした。そのため、DNAの抽出や増幅などのひとつひとつの実験工程の意味や作業はわかっているにもかかわらず、インターンシップが始まるまで分析結果から生息する生物種やその分布を調査できると知りませんでした。普段自分は室内にこもって実験をしているのでサンプリング自体も、また水からのDNA抽出に必要な前処理なども初めての作業で新鮮でした。普段自分が行っているPCRや実験器具の扱い方の違いも興味深かったです。大学の実験室と違い、サンプルの保存や使用済みチップの処理、実験工程を部屋ごとで分けるなど、ミスが起こらないように厳密に実験が行われており、企業として分析を行う際の責任を肌で感じました。また、自分の研究では外部施設に委託していた次世代シーケンサーを自分の手でやる事で、自分が仕組みをちゃんと理解していなかったことを知りました。大学にはない新しい機械や分析方法、環境DNA自体が、以前までの実験操作や調査を簡便にしてくれていました。しかしそれゆえに、使いこなすために仕組みを理解する必要があること、また、あくまで環境DNAの分析結果を精査するためには現地現場の知識が必要不可欠であることも同様に、つかう人も進化しなければいけないと教えてくれました。

インターンシップを通して、自分が将来働く姿をイメージしやすくなり、選択肢が広がりました。さらに自分が現在行っている研究が活かせるかもしれないと知ること、大学での学びに対するやる気がわきました。今回お世話になった方々に感謝申し上げます。

# インターンシップでの貴重な体験

Y大学：工学部・応用化学科・3年

期間：令和2年8月31日～9月11日（5日間）

私は、産業技術センターの食品技術グループで、インターンシップに参加させていただきました。学校での授業を学ぶうちに、微生物が関係するような分野に興味を湧いてきたため、実際の現場で自分の目で見て体験することでより深く学びたいと思い、今回インターンシップで仕事を体験させていただきました。学校では機器の原理や微生物学の授業を少し学んだだけの状態での今回の体験であったため、多くのことをこのインターンシップで学ぶことができました。

初日は、仕事内容や研究内容の話や、機器の見学をしたりしました。他にも、寒天培地の1つである斜面培地(スラント)を作ることもしました。寒天培地といえば平板培地のイメージを持っていましたが、そこで斜面培地というものを初めて知りました。

2日目は、賞味・消費期限を設定する際に行う保存試験のうち微生物試験のやり方を教えていただき、実際に体験しました。一般細菌数を調べるために標準寒天培地を、大腸菌・大腸菌群の数を調べるためにXM-G寒天培地を作成し、調べる菌によって使用する寒天の種類を変えて作るということを知りました。また、微生物や菌などを扱う操作は、他の周りの菌などが入ってしまうコンタミが起こらないように気をつけなければならないため、器具などをオートクレーブで滅菌し、クリーンベンチという装置内で無菌操作を行うことが重要であるということが学べました。このクリーンベンチ内で操作を行うのはとても緊張しましたが、いい経験になりました。

3日目は、FT-IRと電子顕微鏡を使って、サンプルを分析しました。それぞれ使い方を教えていただきながら、FT-IRではサンプルの有する結合を調べ、その結果からどのような物質かある程度見当をつけ、電子顕微鏡ではサンプルを構成する元素を特定することができました。

4・5日目は、微生物の培養・管理や観察について学び、その際に平板培地や初日に学んだ斜面培地など、使用目的に応じて培地のメリット・デメリットを考慮しながら、種類を変えることが必要であると分かりました。また、2日目に学んだ以外の培養方法であるコンラージやニードルを用いた方法も体験しました。このように培養の仕方を変えたり、培養する環境条件を変えたりすることも、微生物の種類や培養目的などに応じて行われているということを知りました。

今回、微生物学で学んだ培養技術や殺菌技術などが実際の現場でどのように使われているかを自分の目で見て体験し、普段の授業だけでは学べない貴重な経験もさせていただき、より知識を深めることができました。原理しか知らなかった機器の使い方も学ばせていただき、授業で原理を学ぶだけでなく実際に自分で使ってみる学生実験も今後活かせるように大切にしていこうと改めて思いました。実験以外の授業の一見関係がないように感じていた内容が必要になるという場面があるということを感じたので、どのような授業も真剣に取り組んで、より多くの知識を身に付けたいと思います。

今回のインターンシップで学び、体験したことを今後の学校生活や将来に活かしていこうと思います。お世話になりました皆様、本当にありがとうございました。

# 税理士業務と人工知能

Y大学：経済学部・経営学科・3年

期間：令和元年8月29日～9月4日（5日間）

私は、今回インターンシップに参加させていただき、税理士業務はなくなることはないと感じることができました。なぜなら、近年、税理士の主な業務内容である簿記・会計監査は人工知能の発達によって人工知能に仕事を奪われると言われていています。しかし、それは人工知能を扱う経営者や経理担当の簿記や税法の理解については反映されていないからです。

今回のインターンシップでの体験内容は、架空の企業の帳簿確認から始まり、税務申告書の作成を行いました。その中で、領収書一枚を確認するにも関与先の企業がどのような事業活動を行っているかによって、費用処理が異なるということも学ぶことができました。例えば、同じ茶菓子代だとしても誰が茶菓子を食べたかによって、費用処理の方法が異なります。このように、領収書一枚の背景を考えて仕訳を切るとは、知識と蓄積された経験から判断できることであり、人工知能では難しいことだと所長はおっしゃっていました。また、私は高校生の頃から簿記の勉強をしてきましたが、税法の理解がないため、分からない部分が多くありました。自身の知識不足を実感するとともに、簿記や税法の理解が十分でない方が経理を行うのであれば、人工知能が発達しても、税理士業務はなくなることはないと感じました。

最終日には、所長や事務員の方に人工知能と税理士業務について質問させていただきました。「人間にはあいまいさがあるが、人工知能にはない」「人工知能の活用によって業務が少し楽になり、その空いた時間でコンサルティングなど今までできなかった業務ができるようになる」等、実際に活躍されている方々の考えを知ることができました。そして、簿記や税法の勉強をするだけでなく、コミュニケーション能力を身につけることやあらゆる業界の経済実態を知ることが大切だとわかりました。また、人工知能を上手く活用し、関与先の企業・経営者に寄り添ったサービスを提供できる税理士になりたいと考えるようになりました。

今まで税理士試験の勉強しかやっていませんでしたが、今回のインターンシップで実際の税理士の方がどのような仕事をしているのか知ることができました。この貴重な体験によって、改めて、税理士になりたいという気持ちを強くし、来年の税理士試験に向けたモチベーションを高めることができました。また、勉強だけではなく、大学在学中にコミュニケーション能力が向上するように様々な人と話したり、あらゆる業界の経済実態を知るために新聞やニュースを見たりするなど、社会人として必要な能力や知識を身につけようと思います。

今回、インターンシップに参加させていただき、税理士になりたいと思うようになったところからの疑問だった、税理士業務と人工知能について一つの答えを見つけることができました。これからも時代とともに状況は変化していきますが、人工知能を上手く使いこなして、人間である税理士しかできないことを大切に、お客様に寄り添った税理士になれるよう努力します。